

当面の日程

- 20日 兵庫地方財政・自治研課題交流会
(ひょうご共済会館)
20日 自治体に働く障害労働者のつどい
(県本部会議室)
27日 町職連協定期総会 (播磨町中央公民館)
27日 青年部定期総会 (ひょうご共済会館)
27日 女性部定期総会 (ひょうご共済会館)
4日 県本部定期大会 (ラッセホール)

自治ひょうご



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

1681号

2025. 9. 15

月2回(1日、15日)発行 定価10円

購読料は組合費に含まれる。

自治労兵庫県本部

書記長／尾西亮太郎・編集人／秦 信昭

シリーズ 尾西が斬る! Vol.③

一刀亮談

いっとうりょうだん

4 人材確保の視点での改善に

昨年的人事院勧告では、人材確保の困難性などの課題に対応するために「給与制度のアップデート」として、初任給や若年層の俸給の大幅な引き上げ、係長級以上(3級)の初号の額の引き上げなどが勧告されました。

今年度も、引き続き人材確保の課題に対応するため、若年層に重点を置きながらも全職員の俸給の引き上げ、比較企業規模の引き

上げ(50人→100人)、通勤手当の引き上げや駐車場の利用に係る通勤手当の新設(上限5千円)など、激化する人材獲得競争を踏まえた勧告となっています。

近年の人事院勧告の課題は、国家公務員だけではなく、地方公務員においても深刻な課題です。私たち労働組合が行う賃金労働条件の改善要求も、この課題を踏まえたものになるのは必然です。

例えば、今年的人事院勧告で出された通勤手当の引き上げにおいても、その視点をもつて交渉に当たる必要があります。

通勤手当は、全額支給が当たり前の公共交通機関の利用と、通勤距離によって支給される交通用具利用に分けられます。

交通用具利用の通勤手当の改善要求は、燃料高騰も大きな根拠ですが、その他にも車検やオイル交換、保険加入など、多大な維持経費が掛かっているのも現状です。

また、駐車場の使用については、各自治体が自家用車での通勤を認めることと併せて駐車場の確保をするのは当然ではないでしょうか。駐車場の確保が難しいのであれば、残業や子育て、介護に対応できる公共交通の整備が必要です。しかし、小規模で採算性の悪い自治体では、公共



2年間の運動方針が確立

自治労は8月25、27日に第99回定期大会を栃木県・ライトキョーブ宇都宮で開催した。大会には全国から約2100人の代議員、傍聴者が参加した。「未来を創る、仲間と共に」を大会スローガンに今後2年間の運動方針を確立するとともに、2期目となる石上千博委員長を先頭とした新執行部体制がスタートした。

大会冒頭、石上委員長は災害対応で奮闘する現場の仲間へ感謝を述べるとともに、戦後・被爆80年を迎える節目に「戦争の惨禍を風化させず、平和を次世代に引き継ぐことは私たちの責任」と強調。核廃絶と対話による平和外交の推進を訴えた。また、7月の参院選を振り返り、組織内候補の岸まさきが再選したことと謝意を示す一方、「得票が目標に届かず、組織の活動力低下が表れた」と指摘し、日常的な活動の強化を求めた。さらに、人事院勧告での賃上げを評価しつつ、秋の確定闘争に向け「賃金労働条件の改善、底上げを勝ち取る」と決意を表明。今後の課題として組織人員の減少や財政基盤強化に「本部・県本部・単組が支

え合い、力強い運動を展開していく」とあいさつした。また、大会に駆けつけた自治労組織内議員の岸まさきこ

え合い、力強い運動を展開していく」とあいさつした。また、大会に駆けつけた自治労組織内議員の岸まさきこ

え合い、力強い運動を展開していく」とあいさつした。また、大会に駆けつけた自治労組織内議員の岸まさきこ

え合い、力強い運動を展開していく」とあいさつした。また、大会に駆けつけた自治労組織内議員の岸まさきこ

え合い、力強い運動を展開していく」とあいさつした。また、大会に駆けつけた自治労組織内議員の岸まさきこ

自治労定期大会

単組・県本部・本部の連携で運動強化へ

未来を創る、仲間と共に

参議院議員は「参議院選挙での、全国の組合員のご支援に感謝する。おかげで2期目のスタートを切ることができた。現場の最前線で働く組合員の声を国政に届けることが、私の役割」と述べた。

議事では、2026・2027年度運動方針や当面の闘争方針、運動と闘争強化に向けた差別体制と財政の構造改革など8議案が提案された。質疑・討論では、財政の構造改革、参議院選

挙、確定闘争の推進など、多岐に渡る活発な議論が行われ、議案はすべて賛成多数で承認された。

都市交評総会

生活基盤の公共交通を守る 物価高騰など深刻な現場状況を報告

県本部都市公共交通評議会は第13回総会を8月15日に県本部会議室で開催した。総会冒頭、奥博之議長は「公共交通確立キャンペーンや人材不足など山積する課題を共有し、解決に向け取り組む」とあいさつ

した。続いて藤野雄大事務局長が各議案を報告・提案し、すべて承認され、総会を終了した。

その後、各単組から取り組み報告があった。伊丹交通の崎田直哉書記長は「コロナ禍以降、運賃収入は

徐々に回復しているが、物価高騰による経費増で大きな収支改善には至っていない」と報告。神戸交通の佐藤秀樹自動車部長は「神戸市営バスは少子化や燃料費・人件費の高騰が経営を圧迫している。公共交通は生活の基盤であり、数字だけでなく暮らしや現場に根ざした政策が求められる」と訴えた。さらに神戸交通の平尾岳洋鉄道部長からは、来春予定の地下鉄西神戸・山手線ワンマン運転に向け、ワンマン化機能の試運転が始まり、秋ごろから閉扉訓練や習熟運転、机上研修が進む予定であることが報告された。またそれが伴い、来年度の駅体制や乗務区体制をめぐる交渉も進んでいるとした。

しこう

この欄は役員が入替わりで執筆している。文調で誰か想像がつくか▼8月は「戦後80年」を多く見聞きした。当時の事を直に聞ける機会が減る中で、多くのメディアからの貴重な文章や映像から思いを巡らせたのは大切だ。想像なくして創造もできない。いまや「平和を守る」から「平和を創る」ために一歩前に出なければ現状も守れない流れを感じる▼そんな中、県本部では単組代表者会議で人事院勧告から単組の取り組みを提起し、自治労大会で2年間の本部方針が確立した。単組も役員改選などが進んでいる▼秋に向けて新体制で一歩ずつ進もう。初めて役員になると「何をどうしたら?」と不安も。その時は県本部の情報をもとに単組で比較して現状を知ることを始めよう。自らを知ることで課題も見えてくる。学び創造する努力なくして維持すらできないことは歴史が語る。 ⑩

いまいち座

一茶一湯 一室一室

猛暑手当は出ないのか!



吉田ノボ

現業公企第2次闘争

欠員補充が最重要課題

10月17日に統一行動日を設定

県本部は「直営堅持」を基本方針に、現業・公企職場で働く者が安心して健康で働き続けられる職場づくりの実現、公共サービスの質の向上により住民の健康と福祉の維持・向上をめざすこととし、第2次闘争では、第1次闘争からの継続課題をはじめ、地域実情に応じた質の高い公共サービスの提供に向け、取り組みを確認している。

このため、6月の人員確保闘争を現業・公企闘争の第1次闘争として、まずは人員確保を最優先に取り組んでおり、第2次として10月17日には全国産別統一行動日として、早朝1時間ストライキを配置し、要求事項の解決を図る。

この間、現業・公企職場は、新規採用抑制や退職者不補充、賃金抑制・民間委託化などの合理化提案が後を絶たない現状のなか、閉塞感が強まっている。

また、公企職場でも職員の高齢化が進み、技術力の継承が困難になっており、職場の活性化、働く者の命と健康を守り、安定的な住民サービスの提供をはかるためにも新規採用による欠員補充の実現は最も重要な獲得課題となっている。

取り組み日程	
9/22～10/2	要求書提出ゾーン
10/3～10/16	交渉強化ゾーン
10月3日	回答指定基準日
10月9日	県本部現業・公企闘争勝利総決起集会 (14:00～のじぎく会館)
10月17日	全国統一行動日 (1時間スト配置)

結核を活用し「要求―交渉―妥結(書面・協約化)」の交渉サイクルの確立に向け取り組みを進めよう。

県本部は8月8日、県市町振興課、県教育委員会、公企関係部局に対し、申入書を提出し、10月2日に交渉する予定。そして10月9日には現業公企闘争勝利に向けて、総決起集会を神戸市内で開催し意思統一を図ることとしている。

現業・公企が持つ権利である、団体交渉権・協約締結権を活用し「要求―交渉―妥結(書面・協約化)」の交渉サイクルの確立に向け取り組みを進めよう。

総会では山下忠之委員長(フォーラムひょうご代表委員)は、戦後80年を迎える今年の意義に触れ、排外主義の広がりや人権意識の低下に警鐘を鳴らした。また社会の分断を防ぐために人権尊重を訴え、厳しい情勢だからこそ理念を土台に運動を進めようと呼びかけた。その後、経過報告、新年度方針が提起され、全体で確認し、総会を終えた。



第33回全日本自治体職員等女子バレーボール選手権全国優勝大会(全国バレーボール大会)が9月6日、三重県津市の日硝ハイウエアアリーナで開催された。大会前日の9月5日には出場チームによる合同会議が開かれ、対戦相手を決める組み合わせトーナメントの抽選が行われた。この年全国バレーボール大会は2年に1度開催されており、9地連から進出した14チームに、前回優勝の太田市職労(群馬)と開催県代表の

三重県職労を加えた16チームが出場し、熱戦を繰り広げた。兵庫から参加の宍粟市職労は近畿地連代表として、前回に続く2回目の挑戦となった。

抽選の結果、宍粟は初戦で四国地連代表・香川県職労と対戦することが決定。香川県職労は全国大会出場19回、今年で5大会連続の全国大会出場常連チームである。宍粟は「全国の壁の高さを思い知った」と語る前回の経験を糧に、普段から全国大会を見据えた練習を積んできた。試合開始前の円陣では「宍粟の『し』は勝利の『し』!!」と元気を

8月3日、神戸市ラッセホールで、フォーラム平和・人権・環境ひょうご総会と学習会が開催された。

総会で山下忠之委員長(フォーラムひょうご代表委員)は、戦後80年を迎える今年の意義に触れ、排外主義の広がりや人権意識の低下に警鐘を鳴らした。また社会の分断を防ぐために人権尊重を訴え、厳しい情勢だからこそ理念を土台に運動を進めようと呼びかけた。その後、経過報告、新年度方針が提起され、全体で確認し、総会を終えた。

「使える核」への転換に警鐘

80年の節目に対話と外交で平和構築を訴え

谷事務局長は「『使用可能な核』へ危険な転換が起きている」と強い危機感を示した。また、原水禁運動の次世代継承に

谷事務局長は「『使用可能な核』へ危険な転換が起きている」と強い危機感を示した。また、原水禁運動の次世代継承に

講演を行う谷事務局長

全国女子バレーボール

全国の壁に再挑戦

宍粟 粘りのフルセットも及ばず

な声が会場に響き、気合十分で試合に臨んだ。

第1セットは強豪香川県職労に先制点を許し苦しい展開が続いたが、中盤で底力を発揮し16対15で逆転。鋭いサーブを武器に5連続得点を奪い、21対16で第1セットを先取した。第2セットは息をのむような長いラリーが続き、両チームともに粘り強くつなぐ攻防の末、第2セットは19対21で香川が奪取。勝負の第

3セットは宍粟が序盤にミスや相手のブロックでペースを崩し4対12と大きくリードを許した。後半に持ち直して猛攻を仕掛けたものの、点差を詰め切れず16対21で惜敗した。

試合後、選手たちは「第2セットで勝ち切らなければならなかった。もう一度全国大会に挑めるよう、これから練習に励みたい」と語り、2年後のリベンジを誓った。



うれしい
医療保障

自治労共済生協組合員だから
利用できる共済です



入院 日帰り入院から保障

通院 病気での連続5日以上入院の場合
▶▶▶ 退院後の通院を保障

不慮の事故での1日以上入院の場合
▶▶▶ 入院前後の通院を保障

※不慮の事故なら入院がない5日以上通院も保障します。

こくみん共済 NEWS
coop 5120F029

団体生命共済
団体定期生命共済

不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。

こくみん共済(全労済) 全国労働者共済生活協同組合連合会

自治労共済 推進本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

※契約にあたってはパンフレットをご覧ください。